ＳＭＣ金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain　SMC 豊島 健治

モノ作りと金融の間
（「扇風機と掃除機」から）

昨夏の暑さには閉口しましたが、今年もどうやら暑い夏となりそうです。先週の連休、勝手口の外の柱に付けている温度計が連日４０度近くを指していました。「本当？」と疑いましたが、朝は２５度位を指しているので多分それほど違うことはなく、今年も猛暑を覚悟しなければならないと思いました。しかし、今年は我が家でも扇風機が活躍しています。３０数年前の扇風機を引っ張り出してみましたが使い物にならず新しく２台買い求めました。いずれもネットで国内メーカー製のごく普通のものを求めたのですが、いろいろ調べる内に「羽根なし扇風機」が人気となっていることを知りました。ダイソンという会社が作っているもので、高額にも拘わらず安全性が評価されてかかなり売れているようです。

ダイソン？　どこかで聞いたような気がしましたが、日経ビジネス先週号掲出の「旗手たちのアリア-反抗と孤高の技術者-」と題する記事を読み、それが紙パックを使わないサイクロン掃除機を売り出した英国の会社名であることを知りました。その掃除機と今話題の扇風機を作ったのがダイソン社であり、それは創業者の名前（ジェームズ・ダイソン）だったのです。今や英国製造業を牽引するダイソン社、私はその記事を読み進むうち心が泡立ちました。こうしたことは時折起こるのですが、３頁の記事で「反抗と孤高の技術者」に魅惑されたのは間違いありません。

ダイソン氏は、世界の掃除機市場を一変させたサイクロン掃除機を発明し、更には羽根のない扇風機開発で世界を驚かせた天才エンジニアだそうですが、私が感銘したのは彼の考え方です。その基本は「モノ作りこそ、富の源泉である」というものです。ご存じの通り、産業革命の発祥地英国では長い間製造業が主たる産業でしたが、徐々に製造業は衰退、代わって最終的に活路を求めたのが金融でした。世界でいち早く金融の規制緩和を実施（通称ビッグ・バン）し、英国のシティは世界の金融の中心地としての立場を確保しました。それはウィンブルドン効果と共に英国に多大な富をもたらすと云われましたが、その富は非常に不安定であることが明らかになり、更にその政策は製造業の一層の没落を促すものとなりました。ダイソン氏はそんな英国に反旗を翻したのです。

彼が著した本があれば読んでみたいと思ったのですが、記事の中で最もショックを受けたのは「最も重要なのは、新しいモノ、より良いモノを作り続けるという哲学。それを失うと、会計士やビジネスマンに会社を乗っ取られる」という言葉でした。彼の云う「会計士やビジネスマン」とは、多分私の属する世界です。私自身が否定されたような気持となりましたが、同時に再度「富の源泉とは何か」を考えるきっかけとなりました。

富の源泉とは何か、そう正面から問われると一寸ひるみますが、彼の云うように「モノ作り」であるかどうかは別として、それが金融ではないことは明らかです。金融とは、お金が余っている所からお金の不足するところに繋ぐのが基本機能で、確かに金融テクノロジーの進化が近代経済を飛躍的に発展させた大きな要因であったことは間違いないとしても、あくまで仲介業者として黒子的役割を果たしているに過ぎません。そもそも「モノ」がなければ成り立たない商売なのです。それが表舞台に登場して大きな顔をするようになるとロクなことが起こらないことは歴史が証明しているように見えます。

東京バブルとは何だったでしょうか。重厚長大産業の成熟化等によって資金余剰に陥った銀行が不動産・建設・ノンバンク３業界を中心に節度もなしに資金を流し込んだことが大きな要因でした（と思います）。思い起こせばあの頃、東京を世界の金融の中心地にするんだ、みたいな事が真面目に語られていました。

リーマンショックとは何だったでしょうか。米投資銀行を中心に、米国の住宅を根こそぎ流動化して世界に巨大マネーを供給したことが要因でした（と思います）。その米国も製造業は衰退の一途を辿っています。

商圏は移動するという言葉がありますが、製造業圏も国家間を移動しています。単純に云えば、英国→米国→日本→中国・アジア、といった感じでしょうか。その凋落した英国でダイソン社が興ったことに興味を持ちます。

翻って、モノ作り大国として世界が認めてきた我が日本はどうなるのでしょうか。英国や米国と同じような流れの中に身を置くのでしょうか。歴史を振り返ればそれも避けられないように思いますが、もう一度「モノ作りこそ、富の源泉である」という言葉を噛みしめたいと思いました。

《複製・転載等はご連絡下さい》

TEL. 0438−53−6092　FAX. 0438−53−6096
URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/　　Email：smc_toyo@hi-ho.ne.jp